

手の平の蟻よ おそらく  
偶然 私の手の平に登ってしまった 蟻よ  
さして広くもない平面を  
裏へまわり 表へ抜けて  
懸命な脱出を試みる

その足では 飛び降りることは不可能だ  
まして 羽を持たないお前が  
飛び立つことなど 出来よう筈もない

もしも私に 狂った一瞬が訪れたなら  
それまでの命  
いや 狂う必要などはない  
何をしたというでもないおまえを  
平然とひねりつぶすくらい心は  
いつだって 持ち合わせてもいる

考えもしなかったことだけど 人の世にも  
なんの恨みもなく  
殺されてしまうことだって あるんだ  
その最たるものが 戦争だ  
一面識もない者同士が  
恨みも 憎しみもないのに  
なぜ 殺し合わなければならぬ  
古来 人だけが  
あわれみの心を知る唯一の生き物なのに

そうっとお前を 地面におろしてやる  
かつて私にも 命の危機が訪れたことがあった  
「生きたい もっと生きたい！」私は痛切に願ったのだった  
蟻にだって 同じ願いはある  
お前の短い生涯にどれだけの悲しみや喜びがあったか  
私は知らない

だが今日のこの一瞬を喜びとして  
生き抜いてゆけ たくましく